

本 編

I 廿日市市の概要

1 位置及び地勢

本市は、広島県の西部に位置し、大別して沿岸部の廿日市・大野地域、島しょ部の宮島地域、内陸部の佐伯地域、山間部の吉和地域の5地域から成り、総面積は489.49km²で約86%が山林で占められています。広島湾沿岸（瀬戸内海沿岸部）から西中国山地に至る変化に富んだ広がりをもつ、自然環境に恵まれた市です。

瀬戸内海に浮かぶ宮島、沿岸部はなだらかな丘陵とその背後に山地が連なり、極楽寺山等とその尾根が北及び西に連なり大竹市まで続いており、それに沿って平坦地や緩傾斜地が形成されています。

内陸部は、標高200m以上で北東から北西にかけて大峯山など1,000m級の山々が連なり、内陸部は600m～700mの山々が複雑に分布し、これらの間を小瀬川、玖島川が流れ、その流域に平地が形成されていますが、まとまった平坦地は幹線道路沿いに限られています。

山間部の標高は耕地部で平均580m、広島県、山口県、島根県の県境に位置する冠山をはじめ、十方山などに囲まれ、これらの山々を水源とする支流を合わせて太田川（総延長103km）が中央部を南から北に貫流し、小規模な高原盆地を形成しています。

歴史的にみると、沿岸部は古くから山陽道の要衝に当たり、広島県西部における政治、経済、文化の中心地として発展してきました。

本市においては広域行政、広域合併への取り組みとして平成15年3月に廿日市市、佐伯町、吉和村が合併し、平成17年11月には大野町、宮島町と合併し現在に至っています。

平成28年3月に、新たなまちづくりの指針として第6次廿日市市総合計画を策定し、めざす将来像として「挑戦！豊かさと活力あるまち はつかいち ～夢と希望をもって世界へ～」を掲げています。

市役所の経緯度： 東経 132度19分54秒

北緯 34度20分55秒（世界測地系によります）

面積： 489.49 km²

人口： 117,035 人*

世帯数： 52,472 世帯*

人口密度： 239.1 人/km²

*人口及び世帯数は令和2年4月1日現在



(図 I - 1) 廿日市市の位置

2 地質

本市の地質は、山地の大部分が花こう岩類岩石（角閃石黒雲母花崗閃緑岩・黒雲母花崗岩）からなっています。これは中生代白亜紀のもので、いわゆる広島型花崗岩とよばれるものです。廿日市地域の北方（極楽寺山）には、角閃石黒雲母花崗閃緑岩を覆った段れき層が分布し、市の天然記念物（昭和50年5月15日）に指定されています。

3 気候

（1）廿日市地域

瀬戸内海式気候に属し、年間を通じて温暖な気候です。地域の北部と沿岸部によって若干の差異はありますが、気温は比較的温和であり、年間平均気温は、16.7℃です。降水量は年間1442.5mmで梅雨期と台風期に多く、冬季は乾燥しますが、温暖な海岸性気候です。

（2）佐伯地域

この地域も瀬戸内海式気候に属しますが、高地にあるため冬季はやや気温が低く、積雪も見られます。年間平均気温は、12.6℃で、このうち1月が最も低く、平均1.2℃で、8月が最も高く、平均24.6℃となっています。降水量は年間1,900mm前後で、このうち梅雨期の7月が最も多く、平均318mm、12月が最も少なく、平均55mm程度となっています。

（3）吉和地域

冷涼多雨で、平坦地での平均気温は、11℃前後、1月には-6℃まで下がり、特に寒いです。また、8月は24℃前後と比較的低く、夏季でも過ごしやすいものの、盆地のため霧が発生しやすく、多湿です。降水量は年間平均1,794mmで、月平均雨量は149mm、梅雨期の雨量は996mmで、冬季の積雪は、平坦地で50～60cmに達します。

（4）大野地域

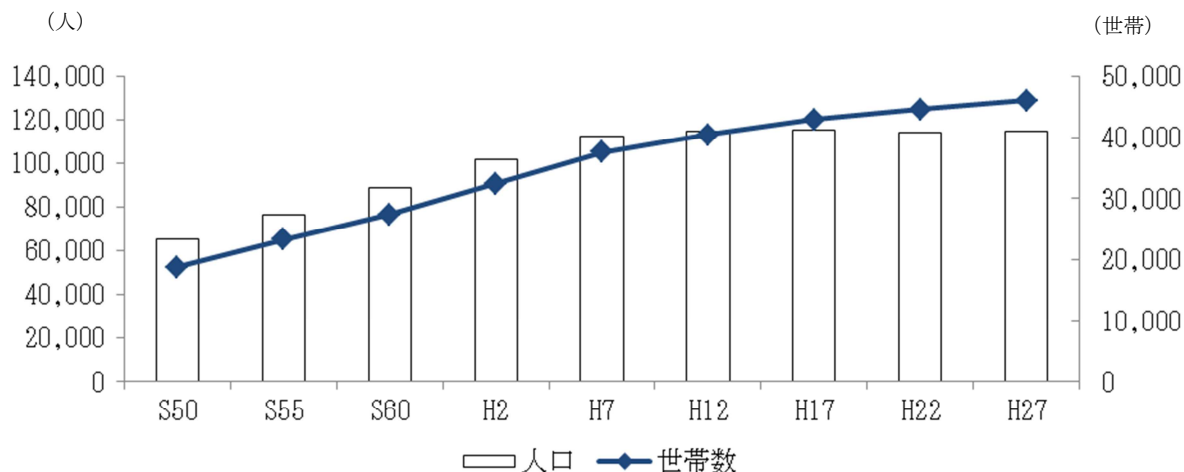
この地域も瀬戸内海式気候に属し、山間部と沿岸部とでは若干差はありますが、年間を通じて温暖な気候で、降水量は梅雨期と台風期が最も多く、年間1,600mm程度です。

（5）宮島地域

この地域も瀬戸内海式気候に属し、年間を通じて温暖な気候で、降水量は梅雨期と台風期が最も多く年間1,600mm程度あります。

4 人口・世帯数の推移

本市の人口（合併後の人口）は、昭和50年から平成17年の30年間で約1.8倍と増加しています。それに応じて世帯数（合併後の世帯数）も大幅に増え、約2.3倍となっています。特に市内に大規模な団地が開発された昭和50年代以降2度の合併により、人口、世帯数とも急激に伸びています。平成27年の国勢調査では、人口114,906人、世帯数46,039世帯となっています。地域別で見ると、廿日市・大野地域が人口、世帯数とも増加傾向、逆に佐伯・吉和・宮島地域は減少傾向となっています。



(資料：総務省統計局 国税調査)

(図 I - 2) 人口・世帯数の推移 (合併後の状況に合わせた数値)

5 土地利用

本市は、全市域面積が489.49km²であり、このうちの23.9%、11,685haが都市計画区域に指定され、市街化区域は2,099.1haの区域が指定されています。

総面積に対する土地利用の割合は、山林、原野、雑種地31.6%、宅地3.3%、農地2.5%などで、近年の推移では宅地の増加が目立っています。

都市計画区域においては、住宅用地15.2%、商業用地1.7%、工業用地3.3%、用途地域の定めのない地域（市街化調整区域を含む）79.8%の構成となっています。

土地利用状況（地目別面積）は、（表 I - 1）のとおりです。

(表 I - 1) 地目別土地面積

年次	総面積 (km ²)	田 (ha)	畑 (ha)	宅地 (ha)	山林 (ha)	原野 (ha)	雑種地 (ha)	その他 (ha)
平成 27 年	489	931	321	1,583	14,081	91	892	31,049
平成 28 年	489	923	317	1,588	14,432	91	899	30,697
平成 29 年	489	914	313	1,589	14,408	92	923	30,709
平成 30 年	489	903	310	1,595	14,385	93	953	30,710
令和元年	489	896	305	1,601	14,349	92	998	30,708

(資料：課税課、各年1月1日現在)

6 産業別人口・事業所数・従業員数

(表 I - 2) 産業別就業人口

区 分		人 数 (人)	割 合 (%)
就業者数	男	30,172	54.8
	女	24,885	45.2
	合 計	55,057	100.0
就業人口	第一次産業	1,241	2.3
	第二次産業	13,120	23.8
	第三次産業	39,108	71.0
	分類不能産業	1,588	2.9
	合 計	55,057	100.0

(資料：総務省統計局「国勢調査報告」(平成27年))

(表 - III) 産業別事業所数・従業員数

区分	事業所数	割合	従業者数	割合
農林漁業	43	1.0%	417	0.9%
鉱業，採石業，砂利採取業	-	-	-	-
建設業	469	10.5%	2,302	5.1%
製造業	319	7.2%	8,008	17.6%
電気・ガス・熱供給・水道業	12	0.3%	225	0.5%
情報通信業	31	0.7%	249	0.5%
運輸業，郵便業	139	3.1%	3,930	8.6%
卸売業，小売業	1,051	23.6%	8,920	19.6%
金融業，保険業	59	1.3%	453	1.0%
不動産業，物品賃貸業	366	8.2%	914	2.0%
学術研究，専門・技術サービス業	163	3.7%	575	1.3%
宿泊業，飲食サービス業	459	10.3%	3,935	8.6%
生活関連サービス業，娯楽業	378	8.5%	2,129	4.7%
教育，学習支援業	227	5.1%	2,496	5.5%
医療，福祉	418	9.4%	7,550	16.6%
複合サービス事業	41	0.9%	571	1.3%
サービス業（他に分類されないもの）	250	5.6%	1,748	3.8%
公務（他に分類されるものを除く）	32	0.7%	1,127	2.5%
全産業	4,457	100%	45,549	100%

(資料：総務省統計局「平成26年経済センサス - 基礎調査結果」)